

速読

□所要時間	30 分程度
□主なスキル	速読
□形式	個人
□概要とねらい	
自分が読む速度を把握し、多読の目標設定に役立てる。(このアクティビティでは読む速度を測定するので、「速読」と呼んでいます。意識して速く読むことやスピードを上げることを目指しているのではなく、あくまで自分の読みを客観的に把握する材料として位置づけています。)	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
400 語程度の速読用パッケージ（問題付き） 時間を測るためのストップウォッチ（プロジェクター等で、スクリーンにオンライン・ストップウォッチを提示できると便利）	
□手順	
1. 本速読の趣旨について説明する（多読用の目標設定に使用する）。 2. 400 語程度の問題付きパッケージを配付する（難易度は学生の習熟度にあわせて調節）。 3. 本文を読んでから問題を解くように指示する。問題を解きながら本文を読む訓練を受けている学生が多いので、必ず指示が必要。制限時間は 10 分。 4. 本文を読み終わったら各自速度を記録する（教室のプロジェクター等にインターネットのオンライン・ストップウォッチを起動させておくと、各自確認しやすい）。 5. 問題を解く。（ここでは問題を解く際に、本文を適宜読み返してもよいこととしている。） 6. 10 分で終了。（ほとんどの学生は 10 分以内で対応可能だが、終わらない場合でも終了させる）。 7. 自分の読む速度(wpm)を算出する。 wpm 計算式: 語数÷かかった時間（秒数）×60 例 400÷360 秒×60=100 wpm （1 分間に 100 語読める計算） 8. 読解問題も答え合わせをする。誤答が多い場合、早く読んでも内容が理解できていないと考えられる。8 割程度できていたら通常の読むスピードととらえる。	

【応用・解説】

指導ポイント

効果的に多読を進めるには、目標設定が必要です。一般に多読実践者の経験則から 100 万語読むとペーパーバックが読めるようになるといわれていますが、100 万語読むには一体どのくらいの時間がかかるのでしょうか。自分の読む速さがわかれば、ある語数を読むのにかかる時間も予測することができるようになります。例えば 1 分間に 100 語読める人ならば 10 分読めば 1,000 語読むことができます。もちろん実際には計算通りに読み進められるわけではありませんが、自分が目指せる現実的な語数がわかれば目標を達成しやすくなるはずです。限られた授業時間で多読を実施する際には特に、実現可能な目標語数を設定する必要があるでしょう。

授業活用例

読む速さの把握は、授業初期の段階で実施すると、目標設定をする際に参考になります。市販の速読テキストはだいたい 300~400 語のパッセージであることが多いので、ここでもそれを活用していますが、多読用図書というよりも問題集のような感覚を想起させる可能性が高く、受験モードになってしまいやすいので若干注意が必要です。実際に多読用図書を読むと、速読で算出した速度どおりには読めない場合も多々あるので、目標設定のための参考値ととらえるのがよいところです。大学生だと 100wpm がごく平均的なところです。なお、比較のために多読用図書を 1 冊読めた時間を測定し、そこから速度を算出してみることも可能です。そもそも精読、多読、速読など目的によって読む速さも読み方もおのずから変わるものです。両方やってみると、それが身をもって感じられます。

授業でずっと多読をしていると飽きてしまう学生もいるので、メリハリをつけたい場合、適宜速読を取り入れることもよいでしょう。比較的短い時間で終わり、点数も出るので達成感を感じる学生もいるようです。多読は長期戦なので、このような短時間で終了するアクティビティを適宜取り交ぜることもよいのではないのでしょうか。

教材

市販の速読用のテキストの中から、難易度があまり高くないものを選ぶとよいでしょう。語彙研究の第一人者で多読も推奨している Paul Nation の速読教材があります。速読の教材を多数作成している Casey Malarcher との共著です。*Reading for Speed and Fluency* というシリーズでレベル別に出版されています（下記参照）。*Timed Readings* という類似シリーズもあります。

- Nation, Paul, & Malarcher, Casey. (2012) *Reading for speed and fluency 1: Student book*. Compass Publishing Japan.
- Spargo, Edward. (1989). *Timed readings: Book one*. Jamestown Publishing.

また速読ではなくとも、短いパッセージを読んで問題を解く、という作業を定期的に取り入れたい場合、各自のレベルに合わせるには McGraw Hill 社が出している SRA Reading

Laboratory という教材セットが適しています（以下のサイトを参照）。

- <https://www.mheducation.com.au/schools/literacy/reading-laboratory>

（文責：小林めぐみ）